

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	社会福祉法人倣裏会 亀岡あゆみ保育園	施設 種別	保育所 (旧体系 :)
評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		

平成24年3月21日

総 評	<p>京都のベットタウンである亀岡市の東部の閑静な住宅街の中にある保育園です。1876年に京都同志社英学を開設した新島襄の理想に倣った社会福祉法人「倣裏会」が経営母体である。昨年より就任された現在の園長は、人口18,000人の当町の自治会長の経歴があり地域からの信頼も厚く行政とのパイプも太い。現場重視をモットーとし、職員との良好な関係を構築、維持している。園長はじめ職員が熱意を持って保育園運営に取り組み、職員は明るく園児たちはのびのびと楽しんでおり、活気が感じられる良い雰囲気のある保育園である。1983年に定数70名で出発した保育園ですが、2011年には本園205名・分園30名で、一時保育や子育て支援拠点事業も担う大きな保育園になっています。社会のニーズに合わせて増員を繰り返してきている当保育園の建物は建て増しが続き、階段や渡り廊下で煩雑になっているが、上手に住み分けられ、子どもたちにとってはアスレチックか迷路での遊び感覚で毎日が楽しい環境になっているように窺える。</p> <p>同法人の亀岡あゆみデイサービスセンターが併設され、お年寄りとも達とのほのぼのとした触れ合いやその中での育ちを目指している。体操教室を週1回カリキュラムの中に取り入れているが、子どもたちが楽しく出来る取り組みにされている。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 園長が企業経験を生かしたマネジメントや、広い人脈による行政を巻き込んだ地域との連携により、組織だった保育園経営をされている。 ◇ あゆみ保育園は「地域でナンバーワンの保育園を目指す」を目標にして、保育者の資質向上を目指し、自己目標・自己評価表を独自に考案し、評価結果は数値化しており理解しやすい。職員はこの評価結果をもって年1回管理者と面談し目標修正も出来る仕組みもある。保育の質と人材育成の両面を向上させる方策は高く評価できる。 ◇ 園長・副園長・主任・副主任・リーダー・職員が組織として役割を明確化させ、役割分担されている。運営を組織化する事で、統括が執れている事が評価できる。 ◇ 清掃が細部に至って行き届き清潔であり、園児が過ごしやすい環境である。 ◇ 食育の取り組みで「栄養三色ボード」を使い子ども達に食に関する関心を高めると共に、「菜園活動で」実りへの感謝や命の尊さを大切にされている。そして保護者へも食べる事の大切な事を多岐にわたる機会をとらえては働きかけている点が良かった。 ◇ 書類も分かりやすく整理されて、日々の保育所運営に活かされている。

<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<ul style="list-style-type: none">◇ 保育指針の中で、「子ども達の自発的に活動が出来るや、自由に等」が謳われていますが、子ども達の持っている力を信じて、自分から動ける子ども（指示待ちではなく）が育つ事が求められている。事からも日々の保育の中で少し硬さが感じられる。 ◇ 例えば保育室の中で遊びのコーナーを作り玩具が何種類か子どもたちの手の届く範囲に用意をする事で、子ども達が主体的に自分から遊びに入りこめるような環境を作れる事が望まれる。 ◇ 表現活動への配慮として、掲示してある描画作品が、画一的に見える事から、自由表現の作品も掲示する事や、作品に対してねらいを説明した文章を付ける等工夫をされる事で、保護者の理解につながると考えられる。
---------------------------	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	社会福祉法人倣襄会 亀岡あゆみ保育園
施設種別	保育所
評価機関名	社団法人京都ボランティア協会
訪問調査日	平成24年2月6日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	A	非該当
		I-2-(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A
	② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。		A	A
	③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。		A	A
	④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。		A	A
	I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A
② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。			A	A
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

I-1-(1) 社会福祉法人倣裏会の基本理念「私たちは社会福祉活動を通じて地域社会に貢献します」、経営方針「経営基盤の強化を図りつつ、福祉サービスの質の向上、並びに事業運営の透明性を確保しよう」が定められ、職員の行動原則「個々の能力を最大限発揮して、仕事を通じて社会に貢献できるよう努力しよう」とあり、具体的に3点掲げられている。これらの法人理念のもと保育園の事業所理念を「福祉活動を通じて地域社会に貢献する」とし、保育理念を「個々の子どもを大切に、保護者、地域から信頼される保育園を目指す」としている。又、保育方針は「健全な心身の発達を図るとともに豊かな人間性を持った子どもを育成する(智育・道徳・体育の実践)」を目指し、保育目標を「明るい子・思いやりのある子・がんばる子」と掲げ健やかな成長を願い、年齢別の保育目標でより具体化している。これらは、パンフレット、中長期計画、保育課程、入園のしおりなどの文書、職員室や園の玄関などの掲示物等で明文化されているのを確認できる。

I-1-(2) 職員は毎朝、理念と行動計画の復唱をしており、職員研修(ワークショップ)・職員面接で確認する機会、基本方針のもと個人目標を立て振り返る(PDCAサイクル)仕組みや職員間のコミュニケーションを大切に、常に保育理念に振り返り、日々の実践をしている。利用者は、利用時の説明以外でも保護者会・家庭訪問・クラス懇談会・参観や日常の送迎時や上司がクラスに参加するなど、利用者との文書で表示するだけでなく、コミュニケーションを大事にし、園内外問わずあらゆる機会でも周知している。

I-2-(2) 保育課程の編成は保育園の理念、方針、目標に基づき地域の実態や保護者の意向を朝夕の送迎時、連絡ノートなど、日々の保護者とのコミュニケーションを大事にし、的確に情報を入手・状況把握し策定され、年齢別に年間・月案・週案の整合性が図られている。保育課程の作成は乳児会議、幼児会議で見直された物をチーフ会議で確認し、乳・幼チーフ・正・副主任で編成する改正会議で年1回は見直す仕組みがある事を、過去3年間の保育課程や2月の会議録で確認した。また、発達年齢別保育内容を職員に配布し、担任が年間指導計画を立てやすいようにしている。保護者には、園内掲示のみならず、年間計画・園だより・しおり・行事・園外保育・クラス懇談会などで周知している。

I-3-(1) 管理者は 職務分担表にて明示すると共に、園外研修に加えてニーズに基づく園内研修の実施や送迎時や昼食時に全体を把握するために、現場に入り早くに変化をキャッチしています。アンケートやクラス懇談会での情報活用に加えて、「Facebook」ホームページを開設し

I-3-(2) 職員会議を始め一方通行でない会議運営にて意見を述べやすくなるようにワークショップ形式の採用・テーマを明確にした会議

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。		A	A	
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

[自由記述欄]

II-1-(1) 管理者は亀岡市の「中期10カ年計画」の委員長をしており、行政においても立案や評価のキーマン的な役割を果たし、常に研修や業界誌や府保育協会やインターネットなどで新情報を入手し、いち早く現場に伝達して活用している。

II-2-(1) 人員配置の最低基準を守り、保育理念に沿った体制が整備され、障がい児保育などの対応など園児の増減を毎月把握している。園児が増えた場合には有資格者雇用のための求人をしている。

II-2-(2) 業務とみなされるものについては、シフト及び申告制にて時間外手当を付けているが、非常勤は時間外業務をさせていない。全ての職員に面接し意見を聞き有給休暇の取得も、データ化し把握している。メンタルケアは保険加入で産業医対応をし、法人全体の親睦会（年2回）など法人全体で共有できる仕組みがある。インフルエンザ予防接種半額補助。非常勤のフォローは正職員がペアで担当をする等、チームで支援する仕組みを取っている。

II-2-(3) 保育園研修プログラムに基づき外部研修や内部研修に積極的に研修を受講している。但し、自己評価表に基づく園長の面接により、研修内容の修正も行っている。受講後は報告書を記入すると共に、職員会議で伝達研修をしている。外部研修について費用助成し、参加しやすい体制があるが、非常勤職員の研修の機会には内部研修が多く、最新の保育内容を学ぶ機会として、外部研修に積極的に参加できるシステムを検討中である。

II-2-(4) 実習生の受け入れは、研修を受けた受け入れ担当者を配置し、「一人の保育士として子どもたちに接して貰うように」オリエンテーションを行い、全職員が共通認識のもとで受け入れ指導をしている。報告書の分析や評価結果は次に活かせるように、個々のファイルを作り保存している。

II-3-(1) ①園長が自治会活動、セーフコミュニティ活動などに積極的に参画し、その都度園の取り組みは会報や案内などにて周知している。
②ホームページ、情報誌などの広報媒体の活用や、子育て支援拠点事業を実施し、パンフレットや事業内容を市役所、社会福祉協議会、東部文化センターに置いている。子育て支援事業で「食育について」や「手遊び講習」など育児に関する情報・ノウハウを保護者や周辺家庭に提供する機会になっている。
③ボランティア受け入れのマニュアルを整備し受入担当者が対応している。中学生職場体験を受入れて、実施後のアンケートも取り、客観的な意見の把握にも努め、実施計画・記録にまとめている。事後報告（感想）は社会福祉協議会が1つの冊子にまとめている。

II-3-(2) 関係機関、団体の機能と連絡先一覧を作成し活用している。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A

[自由記述欄]

Ⅲ-1-(1) 個人情報に関するマニュアルを整備すると共に、「入園のしおり」などに明記し、入園時に説明と園内掲示にて周知。ホームページに写真を掲載する場合は、入園時に個々に確認するとともにその都度確認をしている。

Ⅲ-1-(2) ①②マニュアルやフロー図が整備され、苦情対応やシステムが確立され、職員間で周知し教育がされている。第三者委員が設置され、1年に1度苦情内容の確認と解決の説明をする会合を開催し、内容を法人苦情報告書として、園内に掲示し、苦情・要望を計画の見直しに取り入れている。苦情解決に向けた取り組みは適切に行われている。

Ⅲ-2-(1) ①②定期的に第三者評価を受け、改善に向けた取り組みをする仕組みがある。保育園としての自己評価、職員の自己評価と連動し園全体の質を向上するため目標をもち、実施、見直し、改善する取り組みが積極的に行われている。前回受診時の課題はすべて改善されている。

Ⅲ-2-(2) ①児童票にて把握。入園時の個人面接、家庭訪問など子どもの状況を把握しアセスメント表に記入している。アセスメントは年度末に適切に引継ぎ、次年度の計画が立てられるような仕組みがある。また、定期的な見直しの基準もあるが、日々子どもの様子を見て適切な対応をしている。

②保管・保存・廃棄の基準を設け、記録や個人情報に関する書類は職員室で管理者が管理する等適切に情報管理をしている。又、守秘義務の遵守は職員採用時や全体職員会議で周知している。

③園内体制マニュアルを整備し、乳児会議、幼児会議、チーフ会議、ケース会議・職員会議があり、諸会議の議事録は回覧して全職員が情報を共有している。

Ⅲ-3-(1) ① ホームページの活用や園のパフレットや入園のしおりを公共施設において、適正に情報を提供している。パフレットやホームページは写真入りで、良く分かる様に作成されている。見学は自由に受け入れている。

②新入園児の説明は「入園のしおり」を使い細かく説明している。一時保育の説明も、書面で丁寧に説明をしている。

Ⅲ-3-(2) 保育園児童保育要録を転園児や卒園児に送付している。卒園児保護者には「卒園してから相談に来て下さい」と「保育園便り」に記入して保護者に配布している。担当は副園長・主任となっているが、元担任が相談を受ける事も多く、受けた相談は「相談カード」に書きとどめている。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

【自由記述欄】

IV-1-(1) ①健康状態等について保護者と密に連携をとる仕組みがある。
 ②③各検診、歯科衛生教室を実施している。健康診断は亀岡市の規定により年2回実施。年齢別に回数の差は設けていないが、健診後に医師とカンファレンスを行い受診結果に基づく対応は保護者と連携し個別対応している。
 ④感染症に関するマニュアルに沿って、発生時は保護者に迅速なメール配信や、疾病の症状一覧、離症対応等書面を渡し、全職員が状況把握が出来るようにしている。
 ⑤⑥厨房前に【栄養三色ボード】を設置し、毎日幼児の子どもたちに栄養士や調理師が当日の給食の材料を栄養三色に合わせて食育指導を行っており、菜園活動やクッキング保育など、食育に対する興味が高まっていることから残食もなく食事を楽しんでいる。
 ⑦保護者の試食会やアンケート、給食のレシピを配布しており好評を得ている。年2回の参観日には給食の写真を掲示し紹介している。また、子どもに人気のメニューや新作メニューの紹介をし、保護者との連携を図っている。お便りにお薦めレシピの掲載や希望があればレシピの提供もしている。
 ⑧食品アレルギーがある子どもには、医師の指示のもとに保護者に事前に献立表で除去食や代替食を提供している。

IV-1-(2) ①②掃除が細部にわたり徹底され、雨天の日でも便所からの臭いもしない等、清潔感が感じられる。設定温度は20度から22度で湿度は50%を下回らないように努めている。施設整備や遊具については安全点検表により定期的に点検をしている。保育室はロッカー・机・いす・絵本ラック・ピアノ等が置かれ、広い空間や狭い空間等その時々の子どもの思い思いの生活出来る空間にあり、夫々に合わせて生活出来るようにしている。保育室からは子ども達の元気に遊ぶ声が聞こえている。

- IV-1-(3) ①絵本を読む時や友達を待っている間も保育士は子どもに苦痛を与えないように、声掛けや手遊びをしている様子を見せて貰う。職員間の連携も含め対応している。
- ②熱っぽい子には声掛けや検温をし必要時には別室で休む等対応している。個々の子どものリズムは大事にしているが、集団生活の中で行動する力が子ども達に付いて来ている様子が窺える。年長児においては小学校入学に向け、はじめある習慣が身に付くように配慮し、生活習慣への配慮事項も理解できるが、さらに付け加えるならばもう少し子どもの主体性を重んじる方法の工夫が求められる。
- ③子どもが創意工夫で遊べる環境にあり制作用具は自由に使えるが、玩具は決まった収納場所から出し入れするので、何時でも自由に出し入れが出来る様な空間があるともっと自分の好きな遊びに興じる主体的な子どもの姿がみられると思う。遊具について年度毎に見直しされる仕組みが
- ④保育園周辺は田園が近くにありメダカやオタマジャクシやカエル、ホタルなどが生息し環境面では恵まれている。散歩、菜園活動、園外保育の
- ⑤発達年齢に合わせ基本的な技術を身に付けると同時に、自由に表現活動をする配慮がある。但し掲示している作品が画一的であるので自由表現
- ⑥発達年齢に合わせ、社会性が身につくような工夫がされている。当番活動で子どもが役割を通じて大勢に伝達したり、心配りを日常遊びの中で
- ⑦⑧子どもたちは安心して自分の思いや考えを伝える事が出来るように保育者との信頼関係を大切にしている。安詳小学校区にて保・幼・小・中
- ⑨0歳児クラスも小さな集団で、子ども達と保育者が信頼関係が持てるようにしている。1・2歳児クラスもそれぞれの年齢に相応しい集団での
- ⑩長時間保育室にて、異年齢の子どもたちが遊びながら過ごすことができる。保護者の要望に耳を傾けつつ保護者を待つ子どもたちの心にも寄り
- ⑪建物の構造上、身体に障害がある障害児には不便であると考えられるが、現入園児に対して適切な環境を整える姿勢があり、障害児保育（統合

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

IV-2-(1) ①②③ クラス懇談会、参観日（保護者・祖父母）、行事参観、保護者交流会、個別懇談、日々の送迎時におけるコミュニケーションや連絡帳の活用など保護者との共通理解の機会を複数設けている。個人の案件については各担当が記録にばらつきが生じない工夫として、家庭の状況・保育形態の変化、発達の状況、関係機関の連携等の内容を記載し、それを職員会議にて全職員が情報交換をしている。保育参観や発表会そして運動会では参加型もあり、共に考えたり感じたりする機会がある。子育て相談では、来園され個別に抱えている悩みを話され、内容によっては専門機関に繋いでいる。

IV-2-(1) ④⑤ 虐待については職員研修をしてマニュアルに沿った対応をしている。フロー図あり関係機関への迅速な連絡対応ができる仕組みがある。担任を中心に職員全体で子どもの体調の変化・精神的な不安定さをキャッチ。異常を確認したら適切に対応している。保護者とも虐待防止になるようにコミュニケーションを大事にしている。

IV-2-(1) ⑥ 子ども一人ひとりの記録等の書類が整備され、各年齢共に指導計画と月案・週案が連動して日々の子どもの活動や姿が分かるものになっている。保・幼・小連絡会議、教育研究会等に定期的に参加し、連携を取り合っている。卒園に当たり小学校へ保育園児童保育要録を送付している。

IV-2-(2) 一時預かり事業ご利用の手引きにて、承諾書・申請書・持ち物表・連絡用紙・登園停止が必要な病気などが記載されている。保育室は確保され担当者が決められゆっくと過ごせ、3歳児以上は、誕生日や季節行事にも参加している。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]

①～⑤ 各種マニュアル整備（安全管理・厨房業務・食中毒など）。職員研修をすると共に、定期的に見直しもされ活用している。

① 衛生管理票に基づき清潔に保たれている。清掃・消毒が徹底しており、衛生管理が適切にされている。

② 厨房職員のみならず全職員が毎月検便検査をし、発生時の対応をフロー図化し職員へ周知している。

③ 遊具安全委員会を置き、遊具チェックリストに基づき毎月1回チェックしている。園内危険箇所の確立と防具設置。ハード面整備、保育者の基本姿勢として「子どもを自分の後ろに置かない」事を徹底して、危険回避に努めている。ヒヤリハットは、法人全体で回覧し、要因・原因を分析している記録を確認する。

④ 月1回の避難訓練の実施。事故時などの体制が整備され緊急時の連絡方法や記録について周知されている。職員は普通救命講習を消防署で受講している。

⑤ 非常ベル・緊急通報システム（セコム）・テレビカメラを要所に設置。年2回警察主導の研修が実施されている。